

# 揭示文書

## 課題名「ベバシズマブによる膠芽腫の分子生物学的変化の検討」

### 1. 研究内容

現在、悪性神経膠腫に対してベバシズマブ（商品名：アバスチン）が標準治療のひとつとして組み込まれています。このお薬を使用しても病気が再発することがあり、腫瘍の悪性化が原因として考えられています。本研究ではベバシズマブを投与された患者様由来の腫瘍組織を解析し悪性化のメカニズムを解明することを目的とします。

### 2. 対象

2007年5月から2014年5月の間に金沢大学附属病院で膠芽腫と診断された患者様のうち、ベバシズマブ療法が行われた方を対象とします。

### 3. 研究の方法

金沢大学附属病院で上記対象の患者様の腫瘍組織から遺伝子およびタンパク質を抽出し、ベバシズマブが引き起こす腫瘍の性質変化に関わる様々な因子の発現の程度を解析します。

### 4. プライバシーの保護について

本研究調査を行うにあたっては、患者氏名や患者番号などを取り除いた情報を使わせて頂きます。このような情報を除いたものであっても金沢大学附属病院脳神経外科の管理者が責任を持って厳重に保管します。集計したデータについては本研究のためのみに使用し、最長5年間保管管理を行った上で廃棄する予定となっています。

この研究調査の対象となる方々については、ご協力いただけるか否かについては自由意思です。情報の使用を希望されない方はお手数ですが、2016年3月31日までに金沢大学附属病院脳神経外科までご連絡いただけますようお願い致します。また、一旦同意なさる意向でご連絡なさっていない場合についても上記期間内であればその時点でデータを取り除いた状態で集計報告を行います。

なお、参加を希望なさらない方について、今後本疾患に関する検査や治療を行う際に不利益となるようなことはありません。